

古今一如

ここんいちによ 第2号

発行日 平成20年3月20日
編集・発行 糸魚川歴史民俗資料館
〒941-0056 糸魚川市一の宮1-2-2
TEL・FAX 025-552-7471
URL <http://www.city.itoigawa.niigata.jp/>
E-mail bunka@city.itoigawa.niigata.jp

— 糸魚川歴史民俗資料館《相馬御風記念館》だより —

ごあいさつ

館長 山岸 欽也

初春のあたたかい日差しに誘われて、野山の草花も色めきはじまりました。

学校では卒業式が行われ、思い出と希望を胸に、学び舎を巣立つ児童生徒たちの歌う校歌が高らかに響きわたっていることでしょう。

校歌といえば——明治から昭和にかけて、文芸全般にわたって多彩な才能を發揮したふるさとの文人・相馬御風は、その生涯で200校を超える校歌を作詞しています。これほど多くの校歌を手がけた人は、全国を見渡してもなかなか見あたりません。

その第一作目であり、代表作でもある早稲田大学校歌「都の西北」が制定100周年を迎えた昨春秋、「相馬御風と早稲田」をテーマに企画展を開きました。展示資料の中には、市内初公開となる個人所蔵品もあり、ご来館いただいた多くのみなさんから、御風に関する知識をより一層深めていただいたものと思っています。

また昨年は、新潟県立歴史博物館との共催で、県内で初めてとなる移動展覧会「佐渡金銀山絵巻」展を開催。鉾山での金銀採掘から精錬、小判製造まで一連の作業の様子が分かる絵巻をはじめ、糸魚川にかかわりのある古い文書や地図などあわせて17点の貴重な資料を公開しました。本年も引き続き、企画展を中心に、優

れた歴史民俗資料を鑑賞できる機会を提供できるように努め、市民文化の醸成とさらなる発展に向けて取り組みを進めてまいりたいと考えています。

さて、昭和25年に御風が没してから、今年で58年が経ちます。御風と直接交流した世代も高齢化しており、研究を進めるために、当時の様子をお聞きすることも難しくなってきました。

その一方、次代を担う若年層では、いわゆる「御風離れ」が進み、展覧会や講演会等の顕彰事業は今後も順風満帆とはいえない状況にあります。

また、古文書や民具などの歴史民俗資料への関心も薄れつつあり、世代交代や引っ越し、住宅新築などの際に紛失、あるいは散逸するケースも少なくありません。さらに、資料の解説や研究活動についても、今後すそ野を広げていく必要があると感じています。

これらの課題を解決し、郷土の文化を後世に伝えていくためには、今まで以上に地道な収集活動と人材育成に努めるとともに、情報発信の充実に力を入れて、市民全体の文化意識の向上を図らなければなりません。加えて、これからは積極的に地域に出向き、住民のみなさんと一緒に資料の価値を再発見し、地域づくり活動を盛んにしていくことも大切でしょう。

この冊子を通して当館の活動をご理解いただき、今後みなさんのお力添えを賜わることができれば幸いです。

早稲田大学校歌

都の西北早稲田の本拠
後進の英才はわが母校
わが母校の日は抱負を
進歩の精神はわが志
現世を忘れぬ人々の理想
あまの国にふりそそぐ

東西古今の文化の潮
一つふたつ大なる國の
大なる使命を担ひ立て
わが母校の行はるべき
やのそと久まの理想の
あまの国にふりそそぐ

あけられようの春の光
心の故郷わが母校
集りて人はあまの光
仰くは同じ理想の光
いさよふとて空もとろふ
わが母校の名を
わが母校の
わが母校の

高橋孝師 相馬御風
昭和二十五年三月
相馬御風